

助成年度：平成 21 年度

[所属] 千葉大学大学院 園芸学研究科

[役職] 准教授

[氏名] 秋田 典子

[課題]

住民等による地域環境保全のための土地利用マネジメントの仕組みに関する研究

[内容]

わが国では、今後の人口減少や高齢化率の上昇により、開発動向の変化が従来よりも鈍化し、土地利用の密度が急激に低下したり、土地利用の管理が従来と比べて不十分・手薄になることが予想される。本研究ではこうした課題に対し、良好な都市環境を維持・保全してゆくためには、住民等による地域内外の緑地等のマネジメントのための仕組みが不可欠であると考え、①地域レベルの住民による地区内の空き地の管理活動、②自治体レベルの市民団体による自然管理活動、③交通不便な開発保留地における NPO の土地活用の取組みの 3 つの事例を取り上げて検討を行った。本研究全体を通じて、①住民等が管理可能な空間の大きさは活動内容・対象による差は少なく、生活圏内の土地で活動が行われている、②行政や大学等の公的な主体が活動しやすい環境を最初に整備することが住民による管理活動の前提となる。③管理が放棄された土地でも、住民等が管理に関わることで、雑草が減る等の一義的な効果だけではなく、コミュニティの醸成、新しいライフスタイルの受け皿、地権者の意識の変化等の多様な価値を生み出していることが指摘できた。また、住民等による地域環境保全のための土地利用マネジメントの仕組みは、いずれも行政が積極的に関与し、公的な活動として位置付けることにより活動が維持・発展し、それが空間の多面的な価値の創造にも繋がっていた。これは、土地の管理と財産権とが切り離せないためであり、今後、行政と住民等との協働のニーズが一層高まる中で、土地に関わる活動においては、行政の積極的な関与や制度的な下支えが不可欠であることが明らかになった。